

耐震補強構造体

ディフェンドクロス

【商標登録】 ディフェンドクロス
登録第4282139号
第6類 建築用又は構築用の金属製専用材料

【特許番号】 特許第3406969号

ディフェンドクロスは

基礎・土台・躯体柱を緊結するので引抜強度が強い補強構造体です。

通柱・間柱、どちらでもご利用できます。
本体長さは、取付け部に応じてご対応も致します。
取付け穴には、防蟻・防水処理を施します。
オプション部品もご用意しております。
ディフェンドクロスの使用により家の急激な全壊を防ぐことを可能にしています。

あらゆる耐震規格の建物に有効です。



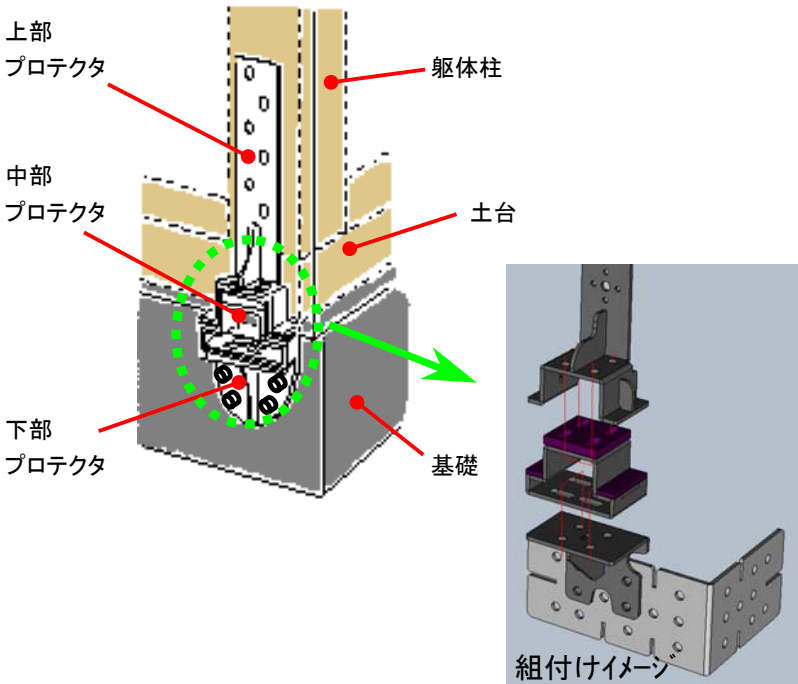
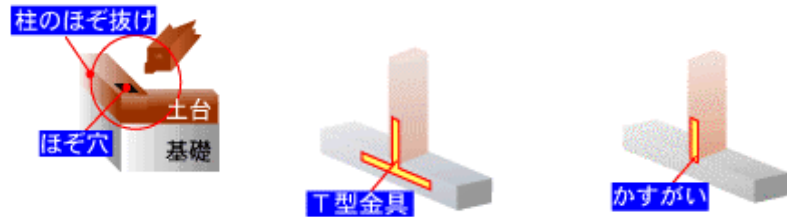
地震はいつ起きる？ **わからない。**
地震の規模は？ **わからない。**
だから、ぐらっとくる前に **対策を。**



突き上げに耐えられれば…

今までの耐震補強は

- ・コンクリートの基礎上に、土台木材をアンカーボルトで固着しその木材にほぞ穴を開け躯体柱を固着している。
- ・そして、各木材を様々な金物を使い接合している。
- ・補強金物は、3mm前後の厚みのものが殆んどで、接合には釘が使われるため振動による浮きや抜けが起こりやすい。
- ・既存の建物に耐震補強を施す場合、壁の取り壊しが必要。
- ・必要な箇所数は数十箇所に及ぶため、工期も長く施工代金も高額となってしまう。



これからの耐震補強は

ディフェンドクロス

- ・既存の住宅も新築の住宅でも、施工方法はかわらない。
- ・コンクリート基礎、土台木材、躯体柱を均等に緊結することが可能。
- ・しかも、従来の金物とは違い、上部プロテクタ・中部プロテクタ・下部プロテクタの、3つの部材に分かれており中部プロテクタには、ワイドなスライド機構が備わっているため、どんな押し出しや窪みなど段差のある所へも取り付け対応が可能です。
- ・上部プロテクタと下部プロテクタへの取り付けも、特殊なU字型ボルトを使いそれぞれを中間プロテクタで連結しますので、地面から突き上げるねじれる様な揺れに対応することを可能としました。
- ・基礎部分にはアンカーボルト、躯体柱には9~12mmのコーチボルトを使い確実に取り付けるため浮きや抜けは発生せず、3つのプロテクタが住宅の構造体をしっかり緊結します。
- ・従来の金物の3~5倍の大きさで、厚い板材を使用しているため、直下型地震にも対応可能となりました。
- ・3つのプロテクタの連結部には、特殊耐震ゴムを備えています。
- ・基礎、土台、躯体柱の3つを緊結することで引抜強度に対する抵抗を増大できるため、数多くの施工箇所を必要としない、耐震補強構造体です。(30坪で約6箇所)
- ・特殊対応も承ります。

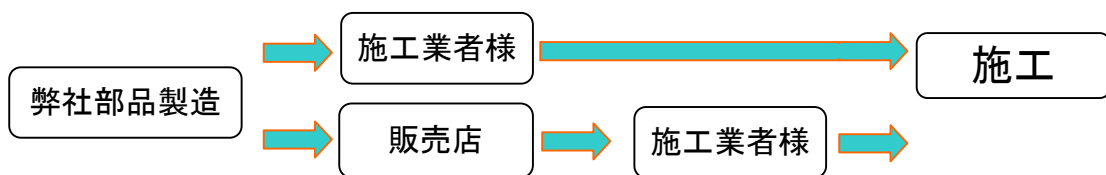
外装の色に合わせたカラー塗装にも対応いたします。(オプション対応となります。)

効果

- ・ディフェンドクロスの使用により、家の急激な全壊を防ぐことを可能にしています。
- ・直下型の大地震(自分の意思で動くことが出来ないような「震度7」)が発生しても、多少の歪み程度で済みます。
- ・家が全壊し、人名が奪われる心配がありません。
- ・ディフェンドクロスは、過大なコストや過小なコストを掛ける耐震補強とは違います。適度適所な耐震補強を実現します。
- ・ディフェンドクロスは、人名を救うために開発されたものであり、例えるなら車と言うエアバック的存在です。
- ・住宅や建物の人名を奪うような崩壊を防ぐものです。
- ・日本列島には、4つのプレート(ユーラシア・北アメリカ・太平洋・フィリピンプレート)が存在し、世界の10分の1の地震が集まっている列島です。
- ・この様な複雑なS波・P波を発生する地震に対応するために、ディフェンドクロスは発明されました。

**建物が倒壊しないように補強をし、
逃げ道を作る手助けをします。**

施工業者様への部品供給



※ご注文を頂ければ施工説明書をお送りいたします。

耐震補強を施工した安心したマイホームへ

※信頼できる施工業者様又は販売店様を通じて安心して使用していただくため、個人への販売は致しません。

耐震補強金具、特殊金具、建築金具の製作も承ります。

単品物から複数個品まで、ご用命頂けましたらご相談に応じます。

耐震以外でもご要望があればご相談ください。



株式会社 ヤマイチ
茨城県稲敷市神宮寺345
Tel: 029(894)2012
Fax: 029(894)3955